

研究課題：先天性総胆管拡張症の胆管形成術後の治療成績に関する研究

1. 研究の目的

先天性総胆管拡張症は生まれつき総胆管（肝臓からの胆汁の排出路の一部）が拡張している疾患であり、胆管（肝臓からの胆汁の排出路）と膵管（膵臓からの膵液の排出路）の合流異常を合併していることが多いです。合流異常によって、胆管炎・膵炎・胆道がん等の発症リスクがあり、拡張した胆管を切除し、胆管と膵管を分ける手術が必要になります。この手術の際に、残す胆管に先天的な狭窄が見つかることがあり、狭窄解除のために胆管形成という術式を追加することがあります。当院では胆管狭窄症例にはほぼ全例胆管形成術を行っており、国内の全施設で胆管形成が行われている訳ではないため、胆管形成による術後成績のデータは今後この術式が広く普及していくために重要と言えます。本研究では、当院での先天性総胆管拡張症の手術を受けられた患者さまの臨床情報を解析させて頂き、胆管形成例を含めた術後成績のデータを発信していくことを目的としています。

2. 研究の方法

先天性総胆管拡張症と診断され、2013年9月から2025年10月までに総胆管拡張症根治術を受けた患者様が対象となります。診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。

3. 研究期間

2026年3月（倫理委員会で承認を得られた日）から2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：外科 科長 川嶋 寛

研究分担者：外科 医員 小川祥子

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）